

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第26期・第1回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第26期・第1回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和6年5月9日（木）13:00～15:00
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席者 秋山修志、石島秋彦、上田昌宏、宇高恵子、岡田康志、
岡田眞里子、片岡幹雄、加藤晃一、神取秀樹、栗原和枝、
佐藤久子、七田芳則、諏訪牧子、寺北明久、徳永万喜洋、
豊島陽子、永井健治、中村春木、南後恵理子、難波啓一、
西坂崇之、野地博行、林久美子、原田慶恵、坂内博子、
山下敦子
(26名)

欠席者 無し

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議 題

(1) 第26期分科会役員選出

- ・世話人からの挨拶
- ・臨時議長の選出
- ・第25期最終合同会議議事要旨の確認（承認済）
- ・第26期分科会役員選出

(2) 第25期からの引継ぎ事項と第26期分科会活動方針

- ・IUPAB分科会と生物物理学分科会の合同開催について
- ・IUPUB2024の準備状況
- ・IUPUB議員 次期日本代表について
- ・日本学術会議の「未来の学術振興構想」および文部科学省「ロードマップ」についての経緯説明と今後について

- ・ 学術フォーラム、公開シンポジウムの経緯説明と今後について
 - ・ その他
- (3) 他の分科会との連携
 - (4) 次回分科会の開催予定について
 - (5) その他

添付書類： 1. 前回議事録（第25期第4回合同会議議事要旨）
2. IUPAB分科会_報告事項
3. 生命科学クロスオーバー研究機関拠点の設立計画
4. バイオインフォマティクス分科会でのシンポジウム企画
5. IUPAB2024資料1（基本データ）
6. IUPAB2024資料2（Social_Event）

5 議事要旨

(1) 第26期分科会役員選出

・世話人からの挨拶

原田慶恵第25期生物物理学分科会&IUPAB分科会委員長から、第26期委員長が選出されるまで、議事の進行を行うという発言があり、第26期基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB*分科会の開催宣言がされた。その後、世話人の第二部会員の岡田眞里子委員から挨拶があった。

*IUPAB：国際純粋・応用生物物理学連合，International Union of Pure and Applied Biophysics)

・臨時議長の選出

第26期生物物理学分科会委員長が選出されるまで、第25期生物物理学分科会&IUPAB分科会の原田慶恵委員長が臨時議長として選出された。

・第25期最終合同会議議事要旨確認（資料1）

第25期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回の第25期最終（第4回）議事録の内容に関して、メール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

・第26期分科会役員選出

第26期生物物理学分科会の委員長、副委員長、幹事の選出について協議の結果、委員長に野地博行委員、副委員長に坂内博子委員、幹事として南後恵理子委員（議事録書記担当）が選出された。

第26期IUPAB分科会の委員長、副委員長の選出が行われ、協議の結果、委員長に野地博行委員、副委員長に西坂崇之委員、幹事として林久美子委員（議事録書記担当）が選出された。

(2) 第25期からの引継ぎ事項と第26期分科会活動方針について

・IUPAB分科会と生物物理学分科会の合同開催について（資料2）

野地博行委員長から、IUPAB分科会と生物物理学分科会とは関連する内容が多いことから、これまで合同開催されてきており、今期も合同開催で行いたいとの提案があり、承認された。

議事録は、生物物理学分科会幹事とIUPAB分科会幹事とで交互に担当す

る。

・ IUPAB2024の準備状況（資料5,6）

野地博行委員長から、6月24日－28日に京都国際会館で開催される第21回国際生物物理会議（IUPAB2024）の準備状況について報告があった。開催内容概要、主な招待講演者、イベントについて紹介が行われた。参加登録者数はほぼ目標値に達成し、その参加者の4割弱が海外からであることが報告された。また、中村春木委員より、生物物理学会欧文誌であるBiophysics and Physicobiologyに本国際会議関連の特集が掲載される旨説明がなされた。

・ IUPAB議員 次期日本代表について（資料2）

西坂崇之委員より、IUPABの次期議員選出に関する説明が行われた。本議員は2－3期連続して務めるのが通例であり、主要メンバーの了承の下、現在議員を務める西坂委員が日本代表として立候補した。

・ 日本学術会議の「未来の学術振興構想」および文部科学省「ロードマップ」についての経緯説明と今後について（資料3）

永井健治委員より、「未来の学術振興構想（2023年版）」について経緯説明が行われた。今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の「グランドビジョン」として、本分科会からは生命科学クロスオーバー研究旗艦拠点の設立について提案が行われ、学術の中長期研究戦略の一つとして採択された。一方、同様の内容で申請していた文科省ロードマップ2023は不採択となった。3年後の次回公募での採択に向けて、ワーキンググループを設置し、議論を深めていく。

・ 学術フォーラム、公開シンポジウムの経緯説明と今後について（資料4）

諏訪牧子委員より、バイオインフォマティクス分科会より共催シンポジウムの依頼について説明が行われた。テーマは「データ駆動による生命の理解 1細胞から～人の動きまで」でウェットとドライの両方からの話題提供が企画されている。今までも概ね2年に1回共催シンポジウムを行っており、共催することが承認された。開催日時は、12月初旬または1月第2週頃の13時-16時半と予定された。

（3）他の分科会との連携

林久美子委員より、一般物理・物性物理分科会との交流について提案が

行われた。以前は物理学会員と生物物理学会員を両方兼ねている会員が多かったが最近は減少し、交流の機会が減っている。今後交流についての具体案を作成し、引き続き議論を行う。

(4) 次回分科会の開催予定について

バイオイオンフォマティクス分科会との共催シンポジウムと同時開催とする予定。

(5) その他

▪ **Asian Biophysics Association (ABA) 関連**

西坂崇之委員より、2025 年にHong Kong University of Science and Technology (HKUST) で開催予定であること、また現会長より、ABA次期会長を日本が務めてほしいという打診があった旨報告が行われた。ABAでの活動経験のあるメンバーの中から選出していく予定。

▪ **日本学術会議の動向について**

難波啓一委員より、日本学術会議の本会議での議論など最近の動向について質問が行われ、意見交換が行われた。

以上